

令和3年度

藍住南小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①新学習指導要領を踏まえた指導方法と評価の工夫改善
- ②学習の基盤となる言語活動の充実

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
教諭 桑野加奈	校長(北岡八千代)教頭(喜多佳英)指導教諭・6年主任(元木里美)1年主任(西谷基子)2年主任(吉岡千江美)3年主任(上田千賀)4年主任(阿部智代)5年主任(山口タ子)特別支援コーディネーター(高島裕子・堤さよこ)指導方法工夫改善担当(三原弘美)

校長

北岡 八千代

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字学習や計算練習に前向きに取り組んでいる。 ●学力に個人差があり、基礎基本の定着に課題をもつ児童が見られる。漢字を確実に覚えておらず、文章中で適切に使えていない。 ●聞く力も弱く語彙力も乏しいため、聞き取る力や文章を書く力も弱い。	①基礎的・基本的な知識・技能について学年相応の力を身に付けることができる。 ②語彙数が増え、正しい言葉や漢字で読んだり書いたりすることができる。 ③各教科の単元テストで正答率を低・中学年80%、高学年75%以上にする。	①朝の学習タイムで漢字・計算の学習の復習を繰り返し行い、基礎基本の定着を図る。 ②音読カードや週末読書・NIEを継続的に実施する。 ③語彙数を増やすために低学年で視写を取り入れ、高学年で辞書の活用をする。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ペアトークやグループトークの実践や継続により、自分の考えや思いを表現できる児童が増えてきた。 ●発展的に考えたり、自分なりに工夫して考えたりする児童が少ない。 ●全体の中では自信が持てず、自分の考えを表現できる児童が少ない。	①目的に応じて、理由を明らかにしながら、自分の考えや思いを適切に文章に書くことができる。 ②友達の考えと自分の考えを比べながら、聴くことができる。 ③考えたことや伝えたいことを、適切な音量や速さで話すことができる。	①ノートの振り返りの視点や書き出しを提示する。 ②全学年で「発表名人」を活用する。 ③ホワイトボードの活用の仕方の共通理解を図る。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ほとんど児童が「藍南学習ルール」の定着がみられる。課題に真面目に取り組もうとしている。 ●自主学習の習慣が付いている児童と、まだ身につけていない児童の差が大きい。正しい姿勢を保持しにくい児童が多い。	①「あいなん学習ルール」を身につけ、主体的に学習に取り組むことができる。 ②自分のめあてをもって自主学習に取り組むことができる。 ③スマホやタブレット、ゲーム等のメディアと上手につき合っていくように、メディアの使い方を見つめ直す。	①「あいなん学習ルール」を継続して指導する。特に正しい姿勢の保持を呼びかける。 ②自主学習の手引きを活用させ、取り組みにくい児童には「めあて集」を作成し、主体的に学ぶ習慣を付けさせる。 ③スマホやゲーム等のメディアについての情報を発信し、「ノーメディア」の取り組みを年4回行い、保護者に啓発する。			

令和3年度 学力向上ロードマップ

